

令和6年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

サシバの現状と 2024 年秋期の渡り

サシバはタカ目タカ科に属し、渡りをするタカの仲間です。全長はオスが約 47cm、メスが約 51cm です。日本では本州、四国、九州、海外では朝鮮半島、ロシア沿海州、中国東北地方で繁殖します。繁殖が終わって秋になると東南アジアへ向けて渡っていきます。一部の個体が日本でも越冬し、屋久島以西の南西諸島、先島諸島、海外では台湾、中国南部で越冬します。



サシバ

かつて里山に多く生息していたサシバですが、2006 年の環境省レッドリストの見直しで全国的に絶滅危惧Ⅱ類に加わりました。その後もサシバの生息状況は改善せず、繁殖地である鹿児島県から青森県のすべての都道府県でレッドリストになっています。東京都のレッドリストによると 2010 年から絶滅危惧ⅠA 類となり、これ以上環境が悪化すると自然界では絶滅してしまうほど危機的状況となっています。

繁殖地でのくらしは、田んぼなど開けた農耕地でカエル、ヘビ、トカゲ、小型哺乳類、大型昆虫などをエサとし、周辺にある林内で営巣します。近年このような環境が少なくなってしまったことが、個体数の減少の原因の一つと言われています。

現在、多摩地区では 60%が人工林です。第 2 次世界大戦後しばらくして、街の復興のため全国的に広葉樹林を大量伐採し、スギ・ヒノキの植樹が行われました。その結果、スギ・ヒノキの花粉がひどくなり、「花粉の少ない森づくり」の対策が東京都で行われています。この作業は、まとまった人工林を伐採して、花粉の少ないスギに植え替えるというものです。遠くから見ると山の斜面を大きくはぎ取られたように見えます。この伐採された環境を利用するサシバが出現するようになりました。伐採された所でエサを探し付近の森で営巣します。

しかし、宅地開発などで農耕地は減少していますので、必ずしも環境が良くなっているとは言えません。今後も危機的状況は続きます。

青梅市梅郷の「梅の公園」では 9 月中旬から 10 月上旬にかけてサシバの渡りが観察できます。日本野鳥の会奥多摩支部では 1998 年から観察を続けています。関東以北で繁殖したサシバが梅の公園上空を旋回しながら通過していくのですが、2024 年 9 月 24 日には

1025 羽のサシバをカウントしました。観察を終了した 10 月 12 日までに 2093 羽のサシバを観察しました。

関東平野を南下してくると、狭山丘陵、加治丘陵、草花丘陵などにぶつかって発生する上昇気流を利用して高度をかせぐために旋回上昇をします。多いときは 100 羽以上が同時に旋回し南下していきます。渡りが多く見られる日は、朝から絶え間なくサシバが北方向から出現します。この光景を見るために多くの人が梅の公園に登ってきます。

観察時期は、日本野鳥の会奥多摩支部のホームページをご覧ください。どなたでも参加できます。観察には双眼鏡と暑い時期ですから、飲み物、帽子などを用意してください。初心者の方は申し出ていただければ解説いたします。



サシバ



サシバのタカ柱

参考文献

日本野鳥の会奥多摩支部 「多摩の鳥」 280 号

日本野鳥の会栃木県支部 「おおるり」 265 号

日本野鳥の会 「野鳥」 828 号

東京都レッドデータブック 2023

第 3 次レッドリスト (2006 年, 2007 年)

(文責 荒井悦子)